

### 第3章 直接的な手段

#### 3.1 省エネの促進

##### 3.1.1 サプライチェーン全体での取組み

###### 基本的事項

環境への取組意識が高い大企業を中心に、サプライチェーン全体での温室効果ガスの排出量(Scope1、Scope2、Scope3)削減を目指す動きが広まっている。

###### ■ サプライチェーン排出量とは

$$\text{サプライチェーン排出量} = \text{Scope1排出量} + \text{Scope2排出量} + \text{Scope3排出量}$$



出典：グリーン・バリューチェーンプラットフォーム(環境省)

###### 対策内容と削減の視点

対策内容	削減の視点
(1) サプライチェーン排出量の算定	自社内における直接的な排出だけではなく、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量を把握し、同排出量を削減する必要性が高まっている。
(2) 脱炭素に向けた調達方針の策定	脱炭素に向けた調達方針を策定し、サプライヤーに示すことで、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量の削減につなげることができる。

###### 対策の実施状況を確認する手段

###### (1) サプライチェーン排出量の算定

###### 【確認する手段】

- ・ 自社のサプライチェーン排出量を算定していることを確認する。
- ・ 親会社等が、自社を含むサプライチェーン排出量を算定していることでも構わない。
- ・ サプライチェーン排出量の削減目標を設定していることを確認する。
- ・ サプライチェーン排出量の削減目標を達成するための施策を設定していることが好ましい。

###### (2) 脱炭素に向けた調達方針の策定

###### 【確認する手段】

- ・ 脱炭素に向けた取組みをサプライヤーに求める調達方針を策定し、サプライヤーに示していることを確認する。